

## 千曲市立上山田小学校



- (1) 学級数 14 学級
- (2) 児童数 男子 141 名 女子 144 名 計 285 名
- (3) 職員数 25 名
- (4) 学校紹介

<http://www.chikuma-ngn.ed.jp/~kamiyamadael/>

千曲市の南、上山田温泉から千曲川左岸の上山田地区を学区とする。上山田温泉の歴史は 100 年以上あり、傾斜地を利用したリンゴ栽培、平地でのトルコギキョウ等の花卉栽培が盛んである。

校歌に歌われている、冠着山・八頭山・大林山（いずれも標高は 1100m をこえる）への遠足、全校を四色に分けて対抗戦を行う運動会、地元の上山田文化会館に美しい音を響かせる音楽会、そして、物を大切にしようとする心の象徴としての「筆塚」が本校の特徴である。

本校の学校教育目標は、「きづき ねばり おもいやり」であり、本年度はその具現のための重点目標を、

- すすんであいさつする
- 目を見て聞く話す
- 地域との交流
- 家庭学習をしっかりとる

として全校一丸となって取り組んでいる。

### (5) 大会テーマの受けとめと研究のねらい

全校研究テーマ「伝え合い、学び合い、考えを深める授業の創造」を設定し、授業改善のポイントを次の 5 項目に置いている。

- 1 適切な学習問題から子どもと教師が共に学習課題を設定する
- 2 自分なりの意見や考えを持たせる場の設定
- 3 友との関わりによって考えを深める場の設定
- 4 深めた考えから、結論を自分の力で出せる場の設定
- 5 多様な学習の場の設定

日々の指導を見返し授業を改善することを通して「自ら気づき考える子ども」「主体的に活動する子ども」「人や物を大切にできる子ども」の育成を願っている。このことは大会テーマにある「心豊かな人間の育成」そのものであり、本校の教育実践を進めることで大会テーマに迫ることができると考えている。



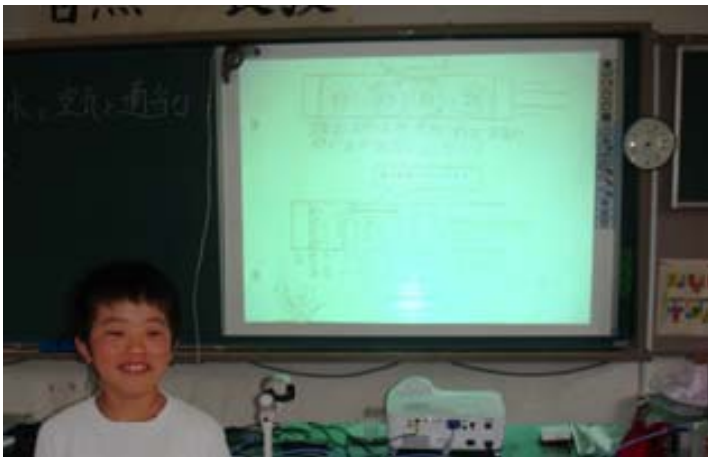
公開を予定している理科では、「自ら立てた仮説をもとに実験・観察を行い、友とかかわり合いながら考えを深めていく理科学習の在り方」を研究テーマに掲げ、子どもたちが課題意識を明確にし、考えを深めることができる授業を目指している。

特に予想を持つ場面や、実験結果をまとめ考察していく場面では、友とのかかわり合いを大切に考えている。友だちと自分の実験結果を互いに共有し、共通点や相違点に着目して結論を導き出していく過程において、子どもたちはより深い理解をしていくと考えている。そして、この実験結果を共有する場面において、視聴覚機器を利用すること

で子どもたちの話し合いを活性化することができ、学習事項の確かな定着が期待できると考える。

5年「種子の発芽」で種子の発芽に必要な条件を見つける場面で、班ごとに実験結果をパワーポイントにまとめ発表した。他の班の結果を参考にしながら班ごとに必要な条件を話し合い、その後、クラスの話し合いへと発展し必要条件が絞り込まれた。この実践からは、自分たちの班に欠けていた点を他の班の実験結果から補うことができ、クラスで結論を導き出すことができた。

4年「とじこめられた空気と水」で、空気鉄砲の先玉が飛び出す仕組みを考え、絵に描き実物投影機を使って発表しあった。自分が考えたイメージを相手にわかってもらうにはどう描いたらよいか、ということも考えながらまとめると自分で理解したことがより具体化して理解できた。目に見えない物を絵に描き発表し共有し合うことで考えを深めることができた。



このような実践事例をもとに、具現の手だてとして次の6項目について研究を進めている。

- ① 予想、考察場面での時間の保障
- ② 既習経験や身のまわりの事象と関連づけて予想できるような事象提示
- ③ 見通しが持てる学習カードの工夫、グループ内話し合い活動の設定
- ④ 実験結果の共通点、相違点に着目した話し合い場面の設定
- ⑤ 机間指導による個々のつまづきの見取りと支援

- ⑥ 予想や考察で具体的な表現活動につながる視聴覚機器の有効な利用

## (6) 日常的な活用

本校には各教室にネットワークされたデスクトップパソコンが1台ずつ配置されている。各学年に1台ずつプロジェクターがあり、教室のパソコンと繋いで教材提示、音楽伴奏等、必要に応じて使っている。スタディポケット（静止画、動画が撮れ、簡単にスタディノートのデータとしてファイルできる）が10台あり、理科や総合的な学習などで使用している。電子黒板は1台あり、書画カメラと共に英語活動で頻繁に利用されている。42インチの液晶テレビは特別支援教室で、教材提示等に使用されている。



## (7) 研究を推進してきたの現時点での課題

これまでの実践で

- ・ 実験によっては、経過や結果が静止画や動画で鮮明に見えないことがある。その場合の支援の在り方はどうしたらよいか。
  - ・ 子どもたちが相手意識に立ったまとめ方ができるように、発表用ソフトになれる必要がある。
- など、課題となる点がわかってきた。

子どもたちが自分の実験結果をわかりやすく伝える場面、自分の予想や考えの裏付けとなる事実を伝える場面での視聴覚機器の利用についてさらに研究を進めていきたい。